

報われない努力から得られるもの

智辯学園奈良カレッジ中学部 二年 稲垣 百花

私は中学生になって、陸上部に入りました。陸上経験者ではありませんが、走ることは好きだったからです。初心者なので、最初は先輩方についていけず、練習メニューも全てやり切ることができませんでした。だから、私は先輩方についていけるように、一生懸命練習をしました。時には家で自主練習もしました。先輩方は初心者の私にとっても優しく、居心地がいいです。練習はきつなくても、走り終わった時の達成感、充実感もたまりません。汗をかいて、青空を見上げて、「ああ、青春だなあ」と自己満足に浸ったりもします。私は陸上部を選んで、本当によかったと思っています。そして一生懸命練習を続けていたから、タイムも順調に伸びてきました。入部した頃は一五〇〇メートルで六分かかっていましたが、今では五分二十秒台で走れるようになりました。目標とする先輩や他の選手に一秒でも近づきたい、さらには、いつか抜かしたい。努力すればきっと結果はついてくる。そう信じて、私は先輩方の背中を追い続けています。

そんなある時、私はフィギュアスケートでオリンピック二連覇した羽生結弦選手の言葉を知りました。

「努力は実るわけではありません。」

努力すれば報われると信じていた私は少しショックでした。しかし、確かにそうだなとも思いました。努力しても全員が優勝できるわけではないし、みんなが速く走れるようになるわけではない。才能がある人がちょっと練習しただけであっさり勝つことだってある。

「世の中、才能次第なのかな。努力しても無駄なのかな。」

タイムが良くなかった時、私は羽生選手の言葉をネガティブにとらえたこともありました。

しかし、本当に努力は無駄でしょうか。努力から得られるものは結果だけでしょうか。

羽生選手の言葉は「報われない努力もある」ということ。それはつまり、「努力しても報われないこともあった。それでも今まで努力し続けてきた」ということだと思います。羽生選手はだれよりも努力をして金メダルをとったはずです。そんな羽生選手の「努力は実るわけではありません」という言葉の重みの中に何が含まれているのでしょうか。

才能があるか、ないか。金銭的に恵まれているか、いないか。周りの環境が良いか、悪いか。様々な状況の中で、できる範囲で努力する。例えば、考えながら練習したり、メニューを工夫したりする。大会に向けて体調を整えるために栄養と休養もしっかりとる。精神を集中できるような環境を作る、こういった努力をする事で、もし結果が出なかったとしても、ともに練習する仲間との出会い、練習や試合後の充実感、悔しさ、次につなげようとする姿勢や考え方などを得られるのは、素晴らしいことではないでしょうか。「努力したって、どうせ実らない」とあきらめるのは、結果しか見ていません。しかし実は、努力の過程で私たちは成長しているのです。

私も学校の宿題や課題が終わらなくて、陸上の練習どころではなかったりすることもあります。その中で「どう勉強し、どう練習していくか」「どう時間を作ったらいいか」「今は何をすべきなのか」などと考えて努力することに意味がある。私もタイムが伸び悩むことはあるでしょう。先輩や目標としている選手にはずっと追いつけないかもしれない。それでも、私は走り続ける。努力の過程を大切にして、上を目指していきたい。実らないかもしれない努力から得られるものは、たくさんあるのだから。